

今回の特集号では、「透析医療における情報」を取り上げた。血液透析装置のシステムや電子カルテとの連携、正しいモニタリング技術の収集、災害時の情報収集、透析版ビッグデータの活用など、さまざまな分野における情報の進歩と展開を執筆いただいた。一読いただければ、現在の透析医療における情報技術の重要性について、再認識いただけたと思う。

現在、個人情報の取り扱いが厳格になり、以前よりも情報が入手しにくくなっているものの、大規模な情報収集とその後の分析が透析医療の進歩に貢献したことは間違いない。

これまでの研究では、主要評価項目として心血管イベント、入院、死亡などの情報が収集され、

費用対効果についても部分的に検討されてきた。しかし、透析患者さんは必ずしも寿命を延ばすことだけを望んではおらず、安寧な透析ライフを過ごし、少しでも自分の想いや夢を実現させることを願っている場合も少なくない。

今後、情報収集の目的は「医療安全」と「至適な透析治療の確立」に集約されると思われる。現在の超高齢社会では、生活の質(QOL)や手段的・基本的な日常生活動作などの情報が、むしろ重要となる可能性がある。われわれはいったい何のために情報を集めるのか、その原点について、もう一度見直す時代を迎えているように思う。

(加藤明彦)

## 2017年(Vol. 33)特集のご案内

- |                                         |                                 |
|-----------------------------------------|---------------------------------|
| No.① 開かれた透析医療<br>— Integrated Care の具現化 | の期待と課題〔特大号〕                     |
| No.② CKD 貧血ガイドライン<br>— 二度の改訂を巡って        | No.⑦ 〔増刊号〕透析患者の侵襲性治療            |
| No.③ 透析医療に携わる看護職の人材育成と<br>チーム創り         | No.⑧ 予後改善を目指した透析医療              |
| No.④ 透析患者の薬剤処方<br>— ポリファーマシーを考える〔特大号〕   | No.⑨ 透析医療における情報技術の進歩・展開         |
| No.⑤ オンライン HDF— 展開と課題                   | No.10 維持透析患者の喪失感— 理解、克服への支援     |
| No.⑥ 創造する透析医療— 新たな modality への          | No.11 開かれた CKD 看護の模索— 意思決定を支援する |

(既刊は○)

## 臨牀透析® Vol.33 No.9

© 2017 年 8 月 10 日発行  
定価：(本体 2,400 円 + 税)

年間予約購読料は前金にて弊社あるいは書店宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、弊社または書店までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也  
発行所 株式会社 日本メディカルセンター  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64 神保町協和ビル  
営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904  
編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377  
e-mail dialysis@nmckk.co.jp  
URL <http://www.nmckk.co.jp>  
郵便振替 00110-2-80695  
印刷所 シナノ印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center Inc. ©2017, Printed in Japan  
・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。  
・ **JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>  
本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(☎ 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail : info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

■ 広告申込所 / 株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話(03)3814-8541